

すずらんプラス（介護保険外事業）の「サンデー・プロジェクト」 発足第一弾！
～『田園調布 蕎麦処 兵隊屋で 新蕎麦を食べましょう！！』を企画してみて～



プロジェクト担当：小林ちえみ

デイサービスすずらん梅丘の送迎車両で、いつものように、ドアtoドアで車を走らせ、いつもと違ったワクワク感！自由時間のお出かけドライブツアーを企画。

夢心地で最高の時間を、参加して下さったご利用者 Nさんと過ごせて、心からしあわせな気持ちでいっぱいです。

そもそも、この企画を考えはじめたきっかけが、Nさんをデイサービスすずらん梅丘まで送迎したことに端を発していたからです。

Nさんは、果樹や茶花が咲き乱れる大きな庭のある日本家屋に息子さん、ピーちゃんという鳥みtainな名前の猫ちゃんと暮らしています。

私は、Nさんの家の庭木を眺める朝のお迎えがとても楽しみだったのです。

桜の木にちらほらと、蕾がふくらんできた頃、「もう、いいから、早くしろよ！」という声を聞くようになりました。

それは、なかなか支度が出来ないNさんを送り出す息子さんが、ついつい、大きな声を出してしまう場面に何度か出くわしていたのです。

迎えにきてもらって、待たせるのが申しわけない、そんな気持ちだったのではないかと心中お察し、そっとお声をかけてみたのです。

「例えばの話ですが、半日ほど、デイサービス以外のお出かけなどに、お母さまをお連れするというプランを立てたら、どう思いますか？喫茶店に行く、あるいは、お蕎麦屋さんに行くなどです。いかがですか？」

すると、ご息子は「すごくありがたいです。私じゃ、出来ない事だから」と、優しく微笑んでくれたのです。

この瞬間から、半年を経て、サンデープロジェクトを開始、そして真っ先に名乗りを上げてくださった方が、Nさんのご子息だったのです。

お出かけ当日の空は高く青く、絵に描いたような秋晴れ。

お迎えに伺うと、ご子息の顔もどこか楽しげで、嬉しい気持ちが伝わりあう中、ドキドキしながら車を走らせる。
これが、いつもと違うワクワク感であることは、Nさん知ってか知らずか。

車中では、普段聞いたことがなかった、Nさんの幼少時代の思い出話に花が咲く。

「秋田に雪が降ると、学校に行く時は、今で言うスキーのようなものを履いていた」

「戦時中、満州鉄道に勤めた兄が一年ぶりに帰省して、別れの朝に父が泣いて、男が泣くのを初めて見たんです」など。

マンツーマンで、接する機会に恵まれて、とりとめもないおしゃべりに夢中になって、新蕎麦を頂きました。

「では、帰りましょー」お蕎麦屋さんを出ようとした時、「おや？ここに夕方まで、ずっとおっちはいけないんですか？」と、Nさん。

食べ終えたお蕎麦のお膳を片付けようとされたのも、ここが、どうやらデイサービスだと思っておられたようです。

嬉しいNさんの思いがけない台詞に、思わず笑みがこぼれました。
なぜかといえば、デイサービスすずらん梅丘にご来所されている時は、「わたくし、そろそろ帰らなくてははいけません」と、午後になると、口にされることがあるからです。

いつもと違った、魅力を存分に発揮されたNさん。
この日の思い出は、私の記憶にいつまでも残りそうです。